

頭痛発生の最低線量は 1.1 ベクレル /kg



頭痛を起こす食品中の放射線量はセシウム137が1.1ベクレル/kgでした。ウクライナのクリーンな「非汚染地域」は、食品はすべて基準以下なので、医者は、頭痛に放射能対策をとりません。農産物汚染によって被害が出るのは、日本では、静岡から岩手県の間で、汚染地域の農業は放射能対策が必要です。

食品と暮らしの安全基金

(旧称：日本子孫基金)

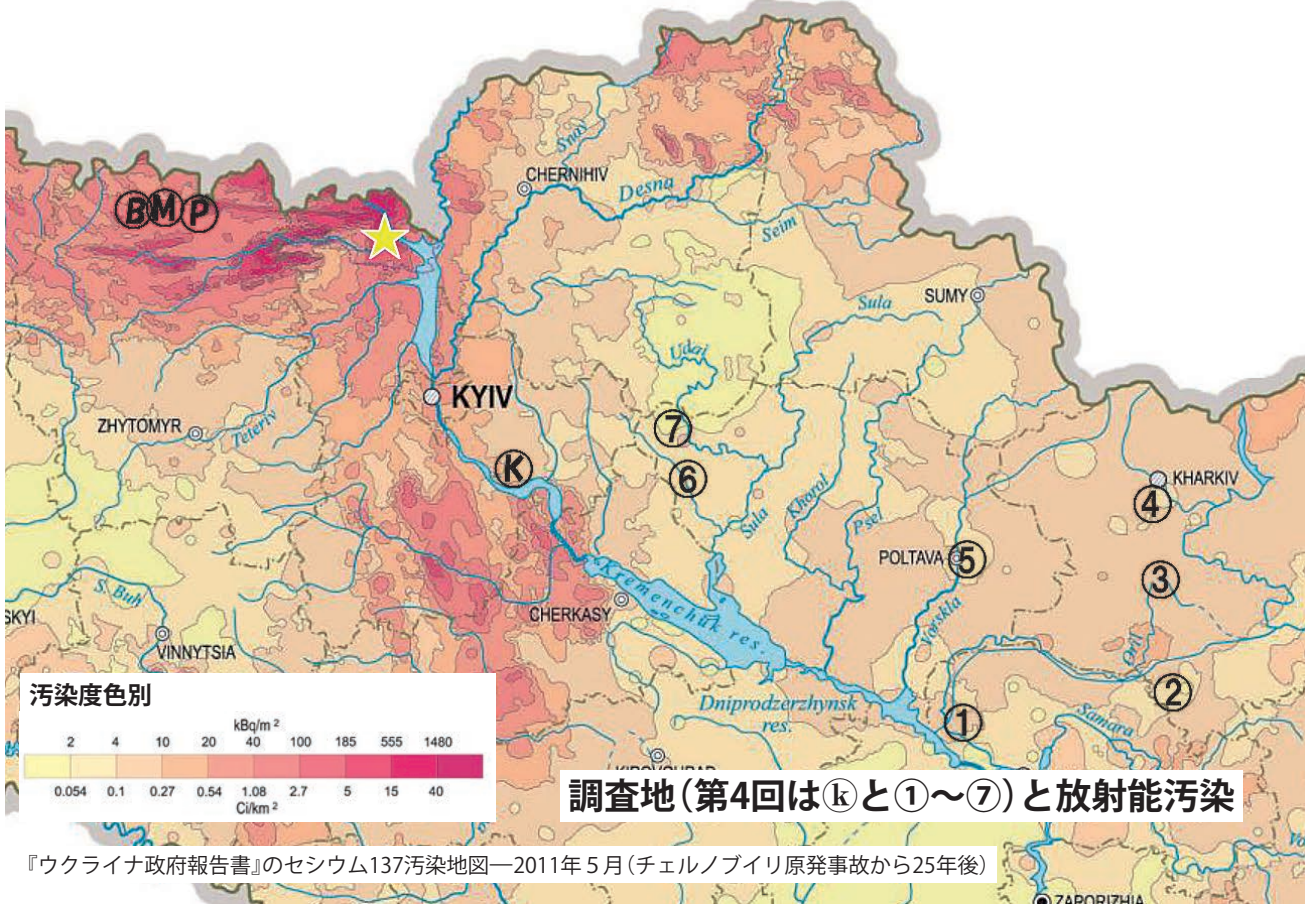
「頭痛がする」と手を挙げた子と親



「頭が痛い人」と⑦の学校で質問すると大半が挙手。

① ⑤は大半の子が健康で、前号で報告した村はⓀ。

日本とウクライナで被害を治し、防ぐ方法が見えました。



食品基準を1ベクレル/kgに

地図⑦の学校の生徒1日分の食事を検査すると、セシウム137が1.1ベクレル/kgでした。この値が、食品の危険指標になります。現在の日本の基準は100ベクレル/kgです。



子どもが元気な地域

先月号で、9家族の健康が回復したと報告したコヴァリン村[Ⓚ]は、クリーンな「非汚染地域」とされています。そんな村で、放射能によるさまざまな健康被害が出ていました。

では、放射能の被害が出ていない地域はどこからなのか、それを突き止めようとウクライナ東部を回る第4回調査取材を行いました。

左図のようにコヴァリン村から東は、放射能汚染が少なくなります。それで、この地域を回れば、放射能が症状を出す最低線量が見つかると考えました。

①～③の地域では、学校で子どもに質問して直接確かめたのですが、足や頭が痛いという子はほとんどおらず、子どもたちは、見るからに元気そうでした。

今回の取材先

- ① ペトリキフカ村
 - ② ロソヴァ市
 - ③ ペルヴォマイスコエ町
 - ④ ハリコフ市
 - ⑤ ポルタヴァ市
 - ⑥ オブシュキ村
 - ⑦ ノヴィ・マルチノヴィチ村
 - Ⓚ コヴァリン村
 - ☆ チェルノブイリ原発
- 健康被害の改善に取り組む村**
- Ⓑ ビグニ村
 - Ⓜ モジャリ村
 - Ⓟ ピシャニツァ村

頭痛の子が多い地域

⑦のノヴィ・マルチノヴィチ村の学校には、頭痛の子がたくさんいて、親の多くも頭痛がすると手を挙げたので、生徒が食べている食事の1日分を村議長に提供してもらい、セシウム137を検査しました。

すると、重量が2.15kgで、2.36ベクレル(Bq)、換算すると『1kg当たり1.1Bq』。

これが、いま人間に症状を出すとわかっている放射線量の最低値になりました。

日本の一般食品基準は、1kg当たり100Bq。ウクライナでは、この90分の1で、子どもと親の大半に頭痛が出ていました。

日本でも、被害が出ているのに見逃されている可能性が高いので、食品基準をすみやかに1Bq以下に引き下げる必要があります。

頭痛が多いノヴィ・マルチノヴィチ村の食事

(食事1日分に含まれるセシウム137)

No.	サンプル名	数量(g)	測定結果(Bq/kg)	1食当たり(Bq)
1	肉のスープ	450	1.1	0.495
2	赤いボルシチ	400	0.7	0.28
3	蒸しジャガイモ	550	1.2	0.66
4	酢漬けトマト	350	1.5	0.525
5	ブラック・カラント・ジャム	400	1.0	0.4
合計		2150		1日2.36

*サンプリング日：2013年3月24日

*ウクライナ保健省ボリスオリ防疫所

子どもたちの健康調査の旅

ウクライナ取材の2日目、汚染の少ない地域へ子どもの健康調査に出発。前日の「サメ肌が治った」「痛くなくなった」という調査結果の喜びを胸に初日にドブニエル川に沿って400kmを南下、4日間で約1000kmの旅です。タチアナ女史が事前調査で学校に健康アンケートを配った地域を訪ね、子どもたちの健康を取材しました。
(丸田)



≪ 20 日 ≫

【デコボコ道】一般道とはいえ、信号もなく時速80 km以上で走行できる。これなら快適と思ったのは一瞬。間もなく、アスファルトがはがれ大きな穴が続く道に突入、それが延々と。ベテラン運転手のイーゴリ・トルシコフスキーさんは右に左にとハンドルを切り、巧みに穴を避けてくれるが、反対車線のクルマも同じように蛇行して走ってくるので、今にも正面衝突しそう。大丈夫とわかっているけど怖い。



な穴が続く道に突入、それが延々と。ベテラン運転手のイーゴリ・トルシコフスキーさんは右に左にとハンドルを切り、巧みに穴を避けてくれるが、反対車線のクルマも同じように蛇行して走ってくるので、今にも正面衝突しそう。大丈夫とわかっているけど怖い。

① ドネプロペトロフスク州

【ラリサ・フィリノヴァさん】

私たちの到着を待っていてくれたのは、ドネプロペトロフスク州行政機関ツーリズム担当の陽気な副議長。

彼女の案内でペトリキフカ村へ。



ペトリキフカ村

【タマラ・パルフェンテヴァさん】

ペトリキフカ地区の副議長が村で待っていてくださり、合流。



<調査団>

団長：小若順一・本誌編集長

副団長：丸田輝夫

丸田晴江・本誌副編集長

事前調査：タチアナ・アンドロシェンコ女史

通訳：ヴァレンティーナ・モロゾヴァ女史

■ 児童芸術センター

ここでは学校ではなく、放課後、子どもたちが通ってくるクラブのような存在。



リュドミラ・ヴラセンコ館長が展示されている絵、手芸など子どもたちの作品を紹介。その後、15人ほどが集まる絵の教室へ。

ペトリキフカの絵と一緒に描くようと勧められる。おそろおそろ子どもたちの横に座ると、指や綿棒を使う手法を丁寧に教えてくれて、楽しい体験をさせてもらった。細い線は、猫の毛を使って描くのだそうだ。



◇児童芸術会館で健康状態を聞く

足がよく痛くなる人は？	0人
頭が痛くなる人は？	1人
(この子はキノコをあまり食べないが、川魚を時々食べている)	
めまいのある人は？	0人
風邪をこの1ヵ月に2回ひいた人は？	0人
鼻血を出すことがある人は？	0人
これらのような症状の友だちは？	いない



「昔と比べ変化はない」

■幼稚園

【リュボーヴィ・ユヒメンコ園長に聞く】

子どもの健康について伺うと「38年働いているけど、昔と比べてあまり変化はありません」

「この年齢の子どもたちは風邪をひいたりするけど、健康はむしろ良くなっています。食事に気を付けて、自然なものを食べさせるようにしています」

ペトリキフカ模様は3歳から教わるといふ。



第4回ウクライナ調査・全日程

- 3月18日(月) 14:30 成田出発
キエフ 23:30 着 (大幅に遅延する)
＜コヴァリン村で宿泊＞
- 19(火) コヴァリン村の家族にインタビュー
＜コヴァリン村で宿泊＞
- 20(水) **ドネプロペトロフスク州**
ペトリキフカ村
幼稚園、学校、博物館訪問
＜ペトリキフカ村の近くで宿泊＞
- 21(木) 学校訪問
ハリコフ州
ロゾヴァ市
市長と懇談、学校訪問
ドハマ村
学校訪問
ベルヴォマイスコエ町
博物館、学校訪問
＜ハリコフ市で宿泊＞
- 22(金) **ポルタヴァ州ポルタヴァ市**
国立ポルタヴァ州衛生監視庁訪問
＜ルブニー市で宿泊＞
- 23(土) **オブシュキ村**
学校訪問
ノヴィ・マルチノヴィチ村
学校訪問
＜コヴァリン村で宿泊＞
- 24(日) コヴァリン村の家族にインタビュー
＜キエフで宿泊＞
- 25(月) 小児科医師と懇談、ナタリアとの再会
＜キエフで宿泊＞
- 26(火) ザポルーカ訪問
チェルノブイリ連盟訪問
＜キエフで宿泊＞
- 27(水) キエフ 15:30 発
- 28(木) 帰国 11:40 成田着

◇ダンスを披露してくれた4歳、5歳、6歳の子どもたちに健康状態を聞く

足の痛い子出てください。	0人
手が痛い？	0人
頭が痛い？	0人
鼻水があった子がいる？	0人
朝ご飯を食べない子いる。	食べている
体操をする？	する

キノコ、川魚を食べている子もいたが、健康に問題はなさそうだ。明るく、無邪気で元気な子どもたちに、なぜか涙がこぼれそうになる。



お土産にペトリキフカ模様の入れ物と手作りのパンをいただく。

【空中線量 0.13 μ Sv/時】

帰り際に園舎の前で測るとこの数値。

健康被害が大きいモジャリ村でも平均 0.115 μ Sv/時（第 2 回調査報告）だから、このレベルの外部被曝は健康に影響を与えない。



■町の歴史・伝統、芸術の博物館

5人の女性が民族衣装で歓迎してくれた。「チブルーシカ」と紹介されると本人たちは大笑い。この言葉は、「ちゃんとした女性たち、いい奥さんたち、家の中がすごくきれい」という意味だそうだ。



【男は頭だが、女は首】

ここはコサクの町で、ペトリキフカ模様はコサクが編み出した。

自由だがお金がなく、筆や染料が手に入らないので、手近な指、猫の毛の筆を使い、染料は植物から取り出して使ったのが起源。自分の家の壁に絵を描き、やがて紙や木に描いて市場で販売して生活の糧としたそうだ。

強いコサク戦士は家ではどうですか？と小若団長が問うと、「コサクは、国の平和のために戦った戦士。男は強いから頭です。そして女性は首です。首が回れば頭も回るでしょう!」その絶妙な回答に一同大爆笑。

お孫さんたち、その友だちに、昔と比べ健康が劣っている子どもはいますか？の質問に「ペトリキフカに住んでいる人たちに変化はありません」と、ここでも子どもたちが健康そうだった。

<ドニエプル川のほとりのホテルに宿泊>

【入浴中に湯が止まる】

3階建ての見かけはいいホテルに泊まったが、水や湯がすぐ出なくなる。

湯が出るのを確認してお風呂に。ところが、頭、体を洗い始めると湯が止まってしまった。全身、石鹸だらけ。仕方なく水で流そうとするが、水も出ない。途方にくれるが、どこかで使っているから出ないのだと考え、待つこと約10分。ようやくチョロチョロ出始め、危機脱出。

小若団長も翌朝、シャンプーの小袋がなかなか開かないときに湯が止まって、人の危機を大笑いで聞きながら、すんでのところで同じ目に遭いそうになっていた。

【0.17 μ Sv/時】

室内で線量計を見ると「0.17」の数字。築20数年のこのホテルの建設にドニエプル川の砂を使ったためか？不気味。

<< 21 日 >>

■一般教育学校

◇ 11年生（17～18歳）に健康状態を聞く

運動の時ではなく、足がよく痛くなる人は？	0人
頭が痛くなる人	0人
目が回る人	0人

【けげんな顔つき】

体に痛いところがあるかの質問にノーの返事が続いた。子どもたちは、なぜそんなことを聞くのかとけげんな顔つきをしている。

その雰囲気、この子たちはコヴァリン村の子どものような健康障害とは無関係。本当に健康なのだ感慨無量に。



多少あるかもしれないが、ひどくはない

【イリーナ・コノヴァール校長に聞く】

——チェルノブイリ原発事故の前と後で、この地域の子どもたちの健康に差はありますか？

校長 多少はあるかもしれませんが、すごくひどいということはありません。先ほど、子どもたちは頭が痛くないと言いましたが、きっと恥ずかしかったのでしょう。

時々、頭が痛いと言った学校の看護婦に言いに行く子たちもいますが、でもその程度です。

——前より少し落ちているということですか？

校長 私の感じではそうです。

——鼻血を出す子は？

校長 そういう子はいません。

——ガンにかかる子が増えていることは？

校長 ありませんね。

——頭痛などで授業に影響を与えるような健康障害のある子はいないということですか？

校長 そのとおりです。

——それでは、原発事故の影響はあるかどうか分からない程度と断言はいいですか？

校長 はい、そうです。



【校庭は 0.1 μ Sv/時】



②ロソヴァ市

■ロソヴァ市役所

【取材対象に】

車を降りてびっくり、建物から出てきた人たちがバラバラと散ると、私たちが撮影し始めたのだ。市の広報部にしては人数が多すぎると怪訝に思ったが、「日本人が来た」という珍しい出来事を取材に来た報道陣だとわかった。

この日、私たちの取材は多くのカメラに追いかけられ、取材対象になってしまった。

【セルゲイ・ステパノフ市長と面談】

小若団長 事前調査にタチアナさんが来た際には、協力していただいて大変感謝しております。

ウクライナの子どもたちを調査させていただき、日本の子どもを救おうと思っておりますが、ウクライナの子も救いたいと思っております。

市長 小さな町ですが、ご訪問をありがとうございます。チェルノブイリ事故は国全体に影響しました。私たちはすべての子どもの健康を心配しています。ですから、みなさんのご訪問はとても大事なことと考えています。教育分野で活躍している副市長が協力し、学校に連絡しました。今日は、訪問予定の学校にご案内します。

市長から記念品をプレゼントされ、握手。



対談中の市長室には報道陣がいっぱい。私は写真を撮るのに移動するのも大変だった。

【ユーリ・ペトレンコ副市長へのプレゼント】

学校へ案内してもらった途中、副市長に、ピシャニツア村やモジャリ村の子どもたちへ市として

食糧援助ができないか打診するが、「難しい」と逃げられてしまう。

副市長の奥さんはリツェイ学校 No.4 の先生と知った小若団長は、「奥さんへ」と真珠のネックレス、さらに直前に買ってきた韓国産のスカーフを、「1週間後に渡してほしい」とプレゼント。



大喜びの副市長だが、そこには小若団長の狙いが……。

その夜、奥さんとの話題で援助の話が伝われば、きつと応援してくれる。1週間後にも話題が復活すれば、教師の立場でもう一度援助をプッシュしてくれるはず……と。狙い通り事を運ぶには再訪しないと難しいと思うが。

■リツエイ学校 No.4

1～11年生まで生徒数 540 人と、地区で一番



大きい学校。校長先生に挨拶しているときもカメラが小若団長の様子を追っている。

案内してもらった

校舎内には、温水プールまであった。

◇11年生（17～18歳）に健康状態を聞く

手が痛い人は？	0人
足が痛い人は？	0人
風邪をひきやすい、熱が出やすい人は？	0人
頭がクラクラする、めまいがする人は？	0人
首が痛い、のどが痛い人は？	0人

どこも痛くない～と手を振って見せる子どもたち



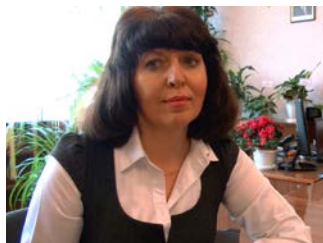
【ヴィクトリヤ・シャリモヴァ校長に聞く】

——チェルノブイリ原発事故の前と後で、この地域の子どもの健康に差はありますか？

校長 私は28年前からこの学校で働いています。私の印象からも、統計からも大きな変化はありません。

——頭が痛い子が増えたりしていませんか？

校長 朝食を抜いてきたり、疲れていたりで具合が悪い子はいますが、1人の子どもがずっと調子が悪いということはありません。



——風邪をひきやすくなったということもありますか？

校長 この学校ではありませんね。

【お土産】

今回は多くの子どもに会うので、ソーラ充電式のLEDキーライトをたくさん用意した。

「日本のお土産だから日の丸のシールを貼ったが、実は中国製」と渡すと、子どもたちは大笑いに。



■ドマハ村の学校（幼稚園併設）

80年前に創立された学校だが、幼稚園も併設され、幼稚園3～6歳が20人、生徒1～9年生（7歳～16歳）は78人が在籍

◇9年生（16歳）のクラスで健康状態を聞く

どこか痛い人は？ 1人
（週2回ぐらい頭痛。川魚もキノコも食べていない）

めまいの人は？ 1人
（7年前から糖尿病。何か拾うときなど、また急にめまいが起きる。キノコは食べないけど魚は食べている）



子どもたちは弱く生まれている

【ナタリア・ボルゼンコ校長に聞く】

——チェルノブイリ事故の前と後でこの村で子どもの健康状況に違いがありますか？

校長 やはりあります。子どもたちは弱く生まれます。弱いので、学校では、もっと健康的にと考えています。ただし、みんなが弱くなったとはいえません。



自律神経失調症の子どもが増えました。何%増えているかとは言えませんが、前と比べると、そういう訴えをする子どもが増えたという感じです。

③ペルヴォマイスコエ町

【ニーナ・ハルチェンコ副町長】(写真左)

この町は、ハリコフ市から 80 km 離れています。



先ほど訪ねられたロゾヴァ町から 50 km。1991 年に町になり、人口は 31,000 人です。

■博物館

音楽と儀礼で迎えられた博物館。



【お守りをプレゼントされる】



マリナ・ロギノヴァ館長が展示品のいわれ、制作テクニックを紹介。

「愛と幸せという言葉が書いてあります」という人形がプレゼントされる。

【ここでも取材される】

まずタチアナさんにマイクを向け、「あなたは誰ですか?」「なぜ日本人を案内してきたのですか?」と質問する。日本人が来るということだけで取材に来たようだ。



その後、小若団長にマイクを向け「ウクライナ訪問の目的は?」と質問。

小若団長は「福島をきっかけにウクライナに来るようになった。会員からカンパしてもらって 4 万ドルぐらいを子どもの救済に援助した」

「非汚染地域とされているコヴァリン村で医者が治らないと言っていた子どもたちの病気が放射能を抜いた食事の提供で治ってきていて、私たちはとてもうれしく思っている」などと話す。

■一般教育学校

【ナデズダ・ログヴィネンコ校長】

「この学校には、1 ~ 11 年生 532 人の子どもが通っています。もう授業は終わっている時間です。」



でも5、6年生が“健康な生活”をテーマに特別授業を行っています」と案内され、ゲーム感覚で進められる授業と「健康のポスター作り」を見せてもらう。



【ウクライナ女性は強い】

お土産にと日本の大手食品メーカーの4種の小さな箱に入ったお菓子を配る。1人2～3箱ずつわたる量なのに、女の子がしっかり全部をわが物に。男の子が来ると1箱しか渡さない。ウクライナ女性は強いとしっかり目撃してしまった。

【語り継がれるチェルノブイリ原発事故】

チェルノブイリをテーマにして、毎年3月から4月にかけて「この日に何が起きたか、どういう事



態に直面したか」をテーマにイベントを行っているようで、見せていただく。

事故当時の映像、廃墟になった街、保育園などの映像をバックにチェルノブイリ原発事故を歌と語りで綴る子どもたちは元気そう。



このようなイベントは全国で行っていると、タチアナさんから聞くと、日本は、フクシマを語り継げるのだろうか。

<ハリコフ市で宿泊>

宿泊したホテルは4つ星。見た目はいいが、廊下から見えた非常階段は崩れていた。

《3月22日》

⑤ポルタヴァ市

■国立ポルタヴァ州衛生監視庁

庁長が入院中とのことで、セルゲイ・マケエフ副長と3人の方が待っていてくださる。



【お土産は奥さんへ】

まず女性にパールのネックレスをプレゼント。続いて男性に用意したお土産を並べながら、「奥さんへプレゼントするならネックレスを」と小若団長が言うと、男性3人ともネックレスに変更。

「ウクライナの男性は愛妻家だとよくわかりました」と応えると、いかめしい男性たちの顔が一挙に和やかに。

【研究センター、ナタリア・ゴルベンコ所長、ニコライ・アサウル副所長】



研究所は1964年以降50年間、放射能汚染を監視。

当時のデータは核実験の汚染が反映されているという。

【汚染推移データが手に入った】



「食品汚染の推移データがありますか」と尋ねると、放射線研究室のニコライ・ザゴルニコ氏が、持参した分厚いファイルの資料を基に、ポルタヴァの汚染推移の説明をしてくれる。

そのコピーをいただきたいと言うと快く引き受けて、膨大なデータをいただけることになった*。

魚のモニタリング場所は、公表していないが「決まっている」と。ただし、洪水や、その気候などにより汚染が変化していると言う。

【ソ連政府は隠していた】

食事をしながらマケエフ副長と懇談する。

医者でもある副長は、この地域はフッ素の多い地域なので、歯に障害が出ているという。

また、「放射能汚染グラフのピークするとき、子どもたちの健康悪化もピークでした。

事故後にガンの専門病院が造られたのは、どうしてでしょうか。医師たちには健康の悪化がわかっていただけ、ソ連の時代に、公式には発言できなかったのです。

ただし、健康に害があっても、必ずしもチェルノブイリ原発事故の関係とは言えません。

ガス、石油が多いところで、火事も発生していたし、1970年代に地下核実験があり、それが健康へ影響したかもしれない。どれと断定するのは困難です」と語った。

晴天の多いポルタヴァ市では珍しい雨にたたられ、北上するにしたがって、やがて雪に。
〈ルブニー市で宿泊〉



気温低下で道が凍り、滑りそうになりながらホテルへ。室内もあまり暖かくないうえ、掛布団がない。毛布1枚だけ。しっかり着込んで寝るしかなかった。

《 23 日 》

⑥ オブシュキ村

10年前より子どもの健康は良くない

雪がしんと降る中、ようやく学校へ。

アレクサンドル・ロマンチェンコ村議長（写真右）とアレクサンドル・デルカーチ校長（左）が待ってくださる。

議長 小さな村まで来ていただいてありがとうございます。



ざいます。いろいろご案内したいのに、この雪で残念です。

村の人口は約1800人。チェルノブイリ原発に近い所から移住した人が多く住んでいます。

学校には76人

が在籍しています。

——この地区で、チェルノブイリ事故の前と後で子どもの健康に違いはありますか？

校長 この地域の子どもの健康は、全体的に悪くなっています。10年前、5年前と比べると今の方が健康状態は良くありません。

ここはフッ素の多い地域ですし、チェルノブイリ原発事故の影響か、環境悪化のせい、それとも食品のせい、私たちにはわかりません。

脊椎、心臓、血管、頭が痛い場合もあります。

今の子はパソコンに夢中になっているので、あまり活発ではないといわれます。でも、子どもの健康の悪化は事実です。

——健康障害を放射能の影響と仮定したコヴァリン村でのプロジェクトについて紹介しましょう。

議長 その話はタチアナさんから伺いました。あなた方の資料ももらいました。残念ながら日本語で読めませんが、絵や写真は理解できました。

——この地域での食品の放射能データを教えていただけますか？

議長 データはありません。ポルタヴァ州はこの

※ ホームページに掲載 <http://tabemono.info/report/date1.pdf>

国で一番きれいな州の一つなので、データはとっていません。

町のレベルでは監視していると思いますが、村ではやっていません。

【移住者の一人に話を聞く】

私は、チェルノブイリ原発から100kmほど西にあるオブルチ市に住んでいました。事故後も4年住んでいましたが、1986年生まれの長男が風邪をひきやすく弱かったので、ここに移住しました。現在息子は27歳、働いていて元気です。この村で生まれた娘は22歳で、元気です。

【民族衣装で歓迎会を準備】

大雪の中、5人のお母さんと先生が、温かい食事を用意して歓迎会を開いてくれた。手作りの料理も、勧められたウオッカも美味しく、お守りになるお土産も頂戴。小若団長は韓国土産のスカー



フをプレゼント。雪の中、外まで出てきて見送りをしてくれるお母さんたち。

⑦ノヴィ・マルチノヴィチ村

ミハイル・デミデンコ村議長（右）、ズベンコ・イーゴリ校長（左）が出迎えてくれる。



土曜だが、上級生が10人ほど集まってくるといった話だった。だが、雪が降る中どれほど来てもらえるか心配していると、なんと父母

も含め25の方が集まってくれた。

議長 チェルノブイリ原発事故後、今までの村から320km離れたこの地域に村を作り、1992年か

◇10年、11年生（15～17歳）と参加した父母の計25人に健康状態を聞く

足が痛い人	1人（11歳から） （この子は頭が痛い、鼻血が出る、自律神経失調症でも手を挙げた。キノコはよく食べるけど、川魚はあまり食べない。）
頭が痛い人	18人
自律神経失調症の人	5人
鼻血が出る人	13人
風邪をひきやすい人	12人
風邪でよく学校を休む人	8人
問題がない人	0人
キノコをよく食べる人	10人
川魚を食べる人	13人

ら95年の間に、村ごと移住しました。畑の真ん中にできた村です。

問題は、1986年の事故後もしばらく、以前の村で生活し続けたことです。事故の影響を受けたのは年配者で、その方々の多くは亡くなりました。

ここに来て、環境が変わりました。以前は森の多い所でした。水も変わりました。ここはフッ素の多い水です。足が痛いとか、骨折の問題が多く、子どもも同じ問題を持っています。

食品は、以前は自分たちで作ったものですが、今は買った物の方が多いのです。

小若団長 フッ素もあるけど、頭痛の人が多から、それだけではないでしょう。放射能を減らした食事によくなる子が出ています（コヴァリン村での食事を変えて6週間ぐらいで症状が改善したことを紹介）。

食事を変えて放射能の少ない食品を食べれば、健康になります。またいつか伺いますが、皆さん、もっと健康になってください。



食品基準の見直しを

ウクライナの非汚染地域で、日本で知られざる放射能の検査データを入手。これを見ると、日本も、土と水と農作物のストロンチウム90を検査する必要があり、また、福島で健康被害が出ているのに、誤診で見逃されている可能性が高いといえます。

「最大無作用量」も求めていた

今回の最大の成果は、食品に含まれるセシウム137のヒトへの「最小作用量」が更新され、1kg当たり1.1ベクレル(Bq)になることを見つけたこと。これで、日本の被害者を少なくするには、食品を1Bq以下に規制することが必要になりました。

実は、本当に見つけたいと思っていたのは、「最大無作用量」でした。化学物質は、最大無作用量を基に規制値を決めるからです。

今回はタチアナ女史が現地を回って事前調査し、食品の放射能汚染データを事前にかなり入手できていました。

しかし、「検出限界以下」が多く、自分たちの検査が最も役立つことになりました。

ストロンチウム90も重要

入手した検査データは、セシウム137だけでなく、ストロンチウム90もありました。

ストロンチウム90は、セシウム137に比べ50～100倍も危険性が高いと言われるので、ソ連の核実験時代から検査が始まり、チェルノブイリ原発事故後も引き続いて検査されていたのです。

セシウム137を食べると、全身のすべての臓器に分布しますが、ストロンチウム90はほとんど骨に蓄積します。

頭痛の原因はセシウム137と考えられますが、肢体不自由児のようになった傷害は、骨

【表1】 ①ドネプロペトロフスク市、ニコポリ市の食品検査結果

食品	Sr-90	Cs-137
ミルク	0.04	0.04
ミルク	0.09	0.06
食用チーズ	0.9	0.09
食用チーズ	0.13	0.13
白パン	0.08	0.25
白パン	0.066	<0.037
「ウクラインスキ」パン	0.057	0.096
乾パン	0.043	<0.037
乾パン	0.063	0.135
「ドミノ」ケーキ	0.072	<0.037
「ジュリア」ケーキ	0.057	<0.037
高級小麦粉	0.063	<0.037
高級小麦粉	0.056	<0.037
ライ麦粉	0.043	<0.037
牛肉	<1.21	2.69
牛肉	0.031	0.16
豚肉	0.03	0.053
豚肉	0.04	0.22
鶏肉(グリル)	1.29	2.65
鶏肉	0.075	<0.037
肉食品	0.17	0.14
肉食品	0.23	0.18
小麦	0.12	0.18
小麦	0.063	<0.037
大麦	0.01	0.13
硬質から作る粒状澱粉	<0.04	0.15
米	0.01	0.19
ビート	0.07	0.136

※ドネプロペトロフスク州保健防疫庁2012年資料には、222品目が掲載され、基準を超えた食品はない

※数値が出ている食品の項目だけを抜き出した

※ ホームページに222品目のデータを公開 <http://tabemono.info/report/date2.pdf>

に蓄積したストロンチウム 90 が神経に損傷を与えている可能性が高いと思います。

足が痛いのも、筋肉痛はセシウム 137 が原因で、骨や関節が痛むのならストロンチウム 90 が原因の可能性が高くなります。

食品の値は非常に低かった

学校の、ほぼすべての子どもが元気だった①（2 ページ地図）の地域は、222 食品が検査されていました。ところが、数値が出ている食品は 2 割もありません。そこから高い値と低い値を抜き出したのが〔表 1〕です。

セシウム 137 の最も高い値は、牛肉の 2.69Bq/kg（以下、単位略）。牛肉で数値が出ているのは他に、

0.16、0.19 がありますが、差が開き過ぎて、平均値を出す意味がありません。

ウクライナの肉類の基準は 200 なので、確かなのは基準より大幅に低いことです。

牛肉以外に 0.3 以上の数値が出ているのは、「鶏肉（グリル）」の 2.65 だけ。

ところが、グリルしない「鶏肉」が 13 品目あって、それらはすべて「不検出」。検出限界は、

0.037 ～ 2.32 なので、これも差がありすぎて、鶏肉も汚染レベルがわかりません。

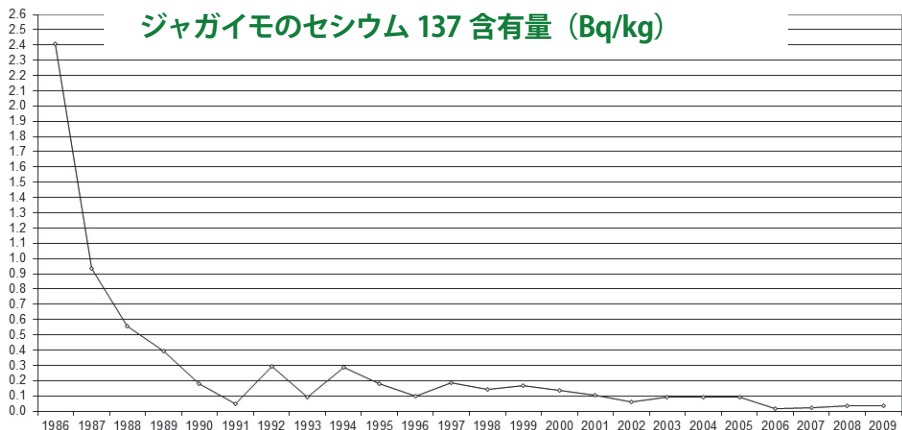
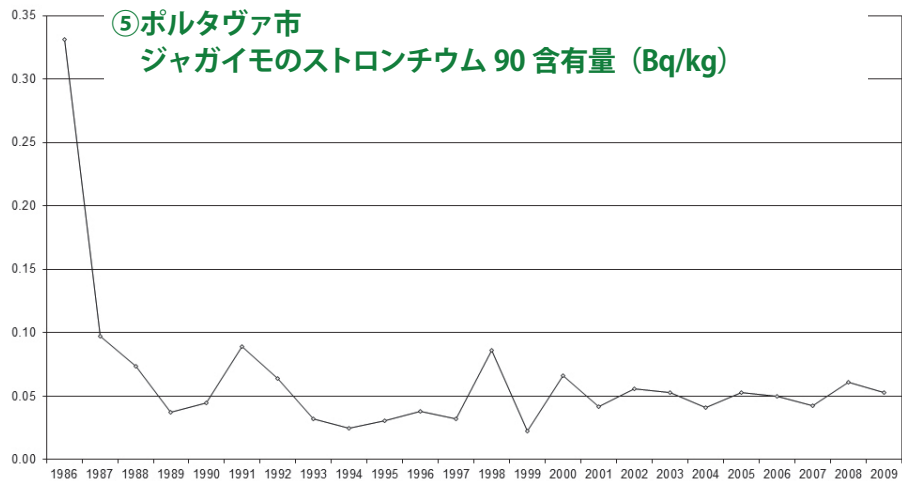
「汚染レベルが低い」と言えるだけです。

27 年前からの推移図

⑤⑥⑦が位置するポルタヴァ州では、1965 年から放射能汚染の検査が行われています。

チェルノブイリ原発事故が起きた 1986 年からストロンチウム 90 とセシウム 137 に重点を置いた検査になり、食品中の推移図が作成されていました。

1986 年の値が高いのは当然として、それ以降もときどき数値が跳ね上がっていますが、これは、汚染地域から入ってきた食品を検査



※ ホームページに「放射能汚染の推移図」を公開 <http://tabemono.info/report/date1.pdf>

したため、と強調されました。

汚染の典型例がわかるジャガイモの図を掲載しましたが、汚染は順調に減っているわけではありません。

1994年を起点とすれば、セシウム137は順調に減っていますが、ストロンチウム90は少しずつ増えています。

ストロンチウム90が増えた食品

推移図を調べると、今の子どもの健康と関連が深い過去10数年の間に、ストロンチウム90の増加傾向が見られた食材は、小麦、パン、肉、ジャガイモです。

2007年から2009年にかけては、川魚、牛乳、キャベツ、ニンジン、タマネギ、赤カブも増加しています。

推移図から、2008、2009年の値を読み取ったのが〔表2〕です。

セシウム137の最大値は1kg当たり0.1Bq、ストロンチウム90は0.5Bq。

したがって、一日の食事の平均値は、これ未満なので、なり低い値になります。

食事の放射能差が少ない⑦と㊀

コヴァリン村㊀の昨年の検査では、キノコは平均210Bqでしたが、その他の食品は、すべて10Bqの検出限界未満でした。

年次報告書に掲載された食品も、やはり検出限界が10Bqで、不検出でした。

数値を知りたかったので今年2月、セシウム137の検出限界を、1kg当たり1.7か1.8Bqに下げ、コヴァリン村の食材を用いた37メニュー^{*}を検査しましたが、すべて不検出でした。健康を損ねていた子どもたちは、想像以上に放射能汚染が少ない食品を食べていたわけです。

検査したメニューから外したキノコや川魚

〔表2〕 ⑤ポルタヴァ市の食品の放射能汚染

食品	(Bq/kg)	
	Sr-90	Cs-137
ドニエプル川の水	0.03	0.004
草食魚	0.5	0.1
肉食魚	0.2	0.1
パン用小麦粉	0.06	0.03
小麦	0.18	0.05
ライ麦	0.21	0.08
牛乳	0.07	0.03
牧草	0.21	0.07
肉	0.13	0.1
ジャガイモ	0.05	0.03
キャベツ	0.09	0.08
ニンジン	0.19	0.05
タマネギ	0.14	0.07
赤カブ	0.1	0.04

※国立ポルタヴァ保険防疫所の推移図から読み取った最新(2008～2009)年の数値

を週に1度ぐらい食べても、平均値は高くても3Bq/kgぐらいにしかなりません。

頭痛が多いノヴィ・マルチノヴィツ村も、さまざまな健康被害が出ているコヴァリン村も、食事のセシウム137は、これまでの常識を覆すほど低いのです。

福島では被害が見逃されている

福島の農作物は、今は検出限界が25Bqで検査され、ほとんど「不検出」になっています。

しかし、ごく一部に25Bqを超える野菜や果物があり、玄米は75Bqを超えるものもあります。

「不検出」がほとんどなので、福島県民の放射能摂取量はブラックボックスですが、福島産の農作物ばかり食べている人は、すでに症状が出ている可能性があります。

頭痛や足痛が、環境の変化とか、ストレスが多いとか、疲れと誤診され、見つからないだけと考えられます。

※37メニューのデータはホームページに掲載 <http://tabemono.info/report/date2.pdf>

農地で起きる被害の差

放射能汚染の差が、そのまま健康被害の差を生んでいるわけではありません。入手した資料は矛盾だらけのように見えたので、整理していると、農地の放射能対策を行うことが、被害を出さない方法であることがわかりました。

汚染図と異なる健康被害

2ページの地図で、①～⑦の地域の色を見てください。赤色が濃いほど、セシウム137が出すガンマ線が強い地域です。

頭痛の子が多くいた⑦より、訪問した学校に頭痛の子がほとんどいなかった③④の方が、赤色が濃いことがわかります。

汚染図で被害の有無を推定できるのは、高レベル汚染地域だけ。ウクライナで「非汚染地域」に分類されている低レベル汚染地域では、被害が出ている地域と、出していない地域がありました。

低レベルの外部被曝は影響ない

日本で普通の人を持っている測定器は、自然界などを含めて、すべてのガンマ線量が示されます。それで高い値が出れば、危険の警告になるわけです。

数万円の測定器は精度が悪いのですが、同



じ測定器で各地を測定すれば、汚染度の目安になります。

そこで参考までに、測定した値をお知らせしましょう。

健康被害が見られなかった①の幼稚園の外は

0.13～0.14 マイクロシーベルト (μ Sv/h)。

第3種放射能汚染地域で多くの子どもに健康被害が出ているモジャリ村⑩の平均値は0.115 μ Sv/h。

多くの被害者が出ている場所の方が、環境線量が低いのですから、このくらい低レベルの外部被曝は健康に悪影響を与えないことがわかります。

さいたま市も表土は放射性廃棄物

ちなみに、さいたま市にある本誌事務所の前で5月14日に測定すると0.11 μ Sv/h。このレベルなら外部被曝の危険性はありません。

しかし、原発事故前より高い値なので、ウクライナを考えれば、埼玉県でも自給的な食生活をしている農家では、健康被害が出る可能性があります。



本誌事務所の入り口の表土を、昨年夏に測定してもらうと、1kg当たり400Bq。

原発内では100Bqを超えると、放射性廃棄物としてドラム缶に詰めて地下貯蔵庫に貯蔵されます。

原発のルールを、さいたま市に適用すれば、表土を放射性廃棄物として隔離処分するまで、人が住める場所ではないということです。

これは、関東全域はもちろん、静岡県や岩手県の一部まで当てはまります。

日本の食事が心配ない理由

この4月の検査では、さいたま市内の農家にあったサツマイモから、セシウム137が1kg当たり2.36Bq検出されています。

その他の野菜はすべて「不検出」。検出限界は1.44～2.26Bq。

日本では精密に行われている部類に入る検査ですが、この「不検出」は、ヒトに頭痛を起こした1.1Bq以下かどうか分からないので、人が健康でいられることを保証しなくなりました。

気になるのは福島県の検査です。「福島の恵み」として、検査データが公表されていますが、検出限界はすべて25Bq。

これでは、私たちが昨年10月に「10ベクレル/kgの食事で健康被害」を見つけてから、不安を募らせるだけの検査になっています。

福島を除けば、日本で一般消費者に、食事

に含まれる放射能で健康被害は出ていないと私は考えています。

その理由は、汚染のない輸入食品が多く、家畜のエサもほとんどが輸入飼料であること、野菜はカットした後で洗浄し、水煮・精製食品が多いので、セシウム137もストロンチウム90も抜けているからです。

ミネラル不足によって、発達障害、うつ病、糖尿病などにはなっても、放射能による被害は出ません。

別の学校で大被害が

では、私たちが取材した③の地域では、健康被害がまったく出ていないのでしょうか。

私たちの依頼でロゾヴァ市議会が、今年2月に行った「子どもの健康に関するアンケート調査」は、8～11年生1293人を対象に行われ、頭が時々痛くなる子が26%、よく痛くなる子が10%、いつも頭が痛い子が2%いました。

【ロゾヴァ市議会が行ったアンケート調査結果】

2013年2月実施、対象はドマハ村を含む一般教育学校の8～11年生（総数1293人）

質問事項	1.ない	2.まれに	3.時々ある	4.よくある	5.いつも
足が痛い場合がありますか	566 44%	496 38%	194 15%	30 2%	7 1%
頭が痛い場合がありますか	216 17%	585 45%	343 26%	125 10%	24 2%
喉が痛い場合がありますか	209 16%	585 45%	392 30%	99 8%	9 1%
よく風邪をひきますか	86 7%	444 34%	586 45%	149 12%	28 2%
鼻血が出ることはありますか	895 69%	253 20%	124 10%	15 1%	6 0%
自律神経、血管関係の疾患は？	1063 82%	119 9%	73 6%	23 2%	15 1%
風邪でよく学校を休みますか	85 6%	525 41%	528 41%	141 11%	14 1%

アンケートではかなり多いのに、訪問した学校に頭の痛い子がほとんどいなかったことは、頭が痛い子は別の学校に多くいる、ということを示しています。

ロゾヴァ市より放射能汚染が少ないポルタヴァ州で、「子どもの健康は全体的に悪くなっています」と校長先生が言った⑥の学校は、事前のアンケートでは頭痛と足痛は「まれにある」としていました。

頭痛の子が多かった⑦の学校でも、事前アンケートでは「ときどき頭痛がする」でした。

事前アンケートに、ものすごく被害が出ていそうな学校がありました。

⑤⑥⑦と同じ州のグレビンカ町の学校では、頭痛の項目で「よくある」と回答した学校が2つあります。2ページの写真で、多く手が挙がった学校の回答は「時々ある」でしたから、それより挙手が多そうなのです。

そのうちの1校は、下のアンケートのように足痛も「よくある」と回答しています。この学校は、健康被害が非常に多そうです。

Питання стосовно здоров'я дітей.

РЕГІОН: *Полтавська обл. м. Фре́вкіна*
ШКОЛА: *Фре́вківська гімназія*

1. Чи турбують болі в ногах (в якому місці)?
1 2 3 ④ 5
2. Чи болить голова?
1 2 3 ④ 5
3. Чи часто болить горло?
1 ② 3 4 5
4. Як часто простудні захворювання за рік?
1 ② 3 4 5
5. Чи бувають носові кровотечі?
1 ② 3 4 5
6. Вегето-судинні захворювання?
1 2 ③ 4 5
7. Чи часто пропусकाють школу по хворобі?
1 ② 3 4 5

Дата: *26.02.2013*

**ポルタヴァ州グレビンキフスキー地区
オブシュキ村の学校 (76人の生徒) ⑥**

1. 足が痛い場合がありますか。
1 ② 3 4 5
2. 頭が痛い場合がありますか。
1 ② 3 4 5
3. 喉が痛い場合がありますか。
1 ② 3 4 5
4. よく風邪をひきますか。
1 2 ③ 4 5
5. 鼻血が出ることはありますか。
1 ② 3 4 5
6. 自律神経、血管関係の疾患は？
1 ② 3 4 5
7. 風邪でよく学校を休みますか。
1 2 ③ 4 5

(2013年2月26日)

ポルタヴァ州ノヴィ・マルチノヴィチ村⑦

1. 足が痛い場合がありますか。
1 ② 3 4 5
2. 頭が痛い場合がありますか。
1 2 ③ 4 5
3. 喉が痛い場合がありますか。
1 ② 3 4 5
4. よく風邪をひきますか。
1 2 ③ 4 5
5. 鼻血が出ることはありますか。
1 ② 3 4 5
6. 自律神経、血管関係の疾患は？
1 2 ③ 4 5
7. 風邪でよく学校を休みますか。
1 ② 3 4 5

(2013年2月14日)

**ポルタヴァ州グレビンカ町
グレビンカジムナジウム**

1. 足が痛い場合がありますか。
1 2 3 ④ 5
2. 頭が痛い場合がありますか。
1 2 3 ④ 5
3. 喉が痛い場合がありますか。
1 ② 3 4 5
4. よく風邪をひきますか。
1 ② 3 4 5
5. 鼻血が出ることはありますか。
1 ② 3 4 5
6. 自律神経、血管関係の疾患は？
1 2 ③ 4 5
7. 風邪でよく学校を休みますか。
1 ② 3 4 5

(2013年2月26日)

土を甘く見て福島県知事が失態

福島で原発事故が起きた年の秋を思い起こしてください。

新米を出荷するとき、福島県知事が安全宣言を出し、その直後に当時の基準の500Bq/kgを超えるコメが見つかりました。

土地の条件によって、放射能が農作物に移行する割合が大きく違うことは、コメの収穫が始まる前から報道されていました。

田んぼによってコメに大きな違いが出ることを軽視したために、大失態が起きたのです。

ウクライナも同様に、土中の放射能濃度は同じでも、土地によって作物の汚染度は大きく異なります。

ウクライナで、放射能汚染が少ないと言われている州に、健康被害がたくさん出ている学校があるのは、農地の条件が異なるからです。その理由をご説明しましょう。

畑の土のカリウム・カルシウム量

農作物中のストロンチウム90とセシウム137は、土中の濃度に比例して作物に移行しているわけではありません。

土に吸着物質が多ければ移行量は減ります。

ペーハー（pH）も、土から作物への移行量に影響を与えます。アルカリ度を高めるとストロンチウムとセシウムの作物への移行量は減ります。

特に大きな影響を与えるのは、作物の必須ミネラルの必要量を、土が満たしているか、どうかです。

カリウムは作物の3大栄養素で、これが必要量を満たしていれば、セシウム137は汚染度に比例して移行します。

ところが、カリウムが足りないと、作物は必死になってカリウムを吸収しようとするので、化学的性質が似たセシウムがあると数百

倍も多く吸収されます。

ストロンチウム90も同様で、化学的性質が似ていて、作物の4大栄養素であるカルシウムが不足した畑では、ストロンチウムが多く吸収されます。

土がカリウムやカルシウム不足のところは、放射能汚染は半分でも、セシウム137とストロンチウム90が100倍多くなる所があるのです。

そういう原理があるので、今回、頭痛の人が多くいたノヴィ・マルチノヴィッチ村の畑は、カリウムやカルシウムが少なかったと推測しています。

16トンの化学肥料が配られた

先月号で、**㊤**の村に、みな様からのカンパを各5000ドルつぎ込んで化学肥料を撒くことにしたとお伝えしたのも、こういう理由によるものです。

実際には、畑に化学肥料を撒いて子どもを救うことがなかなか理解されず、タチアナ女史が2度もオブルチ市へ行き、オブルチ地区の指導部、ピシャニツァ村とモジャリ村の議長と校長を何時間もかけて説得して、4月27日にやっと合意しました。

そして今年から、土と農産物の放射能検査を定期的に行うことになったのです。

その後、農業庁の地区担当者の協力で、すぐに化学肥料が16トン購入されました。

これらの様子を、ウクライナ・チェルノブイリ連盟が撮影したので、将来、映像作品に用いられることになるでしょう。

化学肥料は、学校の生徒たちの家族を優先して配られ、もう畑に散布されています。

この夏からは野菜・果物が、秋からはジャガイモ・小麦・ライ麦・トウモロコシの放射能汚染が減るので、来年になれば、健康を回復した子が出てくるでしょう。

最低作用線量の9000分の1で頭痛 放射線医学の部分崩壊

頭痛がする子の食事に含まれていたセシウム137は1.1Bq/kg。この食事を毎日2.15kg食べ続けると、年間0.011ミリシーベルト(mSv)被曝することになります。

放射線で被害が出た被曝量の最低値は、男性の一時的不妊と、胎児で奇形発生が150mSv、広島・長崎でガン死増が100mSvとされています。最低値の9000分の1で、ヒトに頭痛が出ていたのに、放射線の専門家と医師は、それを見逃していたのです。

2分の1や、3分の1なら、よくある話ですが、何千分の1を専門家が見逃したとは聞いたことがありません。

今回の発見が、放射線の治療や診療に影響を与えることはありません。

でも、放射線防護に関しては、内部被曝と、食品による健康被害の分野は、学問体系が根底から崩れ、全面崩壊したといえるでしょう。

2トンの化学肥料を寄付

日本で被害を防ぐ危険指標となる「1kg当たり1.1Bq」を得させてくれたノヴィ・マルチノヴィチ村にも、感謝の意を込めて、預けてあるカンパの最後の1000ドルを使って、化学肥料を寄付するように依頼。それに現地通貨の残金を加えて2トンの化学肥料が購入され、5月21日に村へ届けられました。

通常の施肥量から考えると、2トンではまったく足りませんが、カリウム不足の畑なら、カリを入れると、トマトやジャガイモのセシウム137が劇的に減ります。

村民の頭痛がどれくらい減るのか、来年が楽しみです。

<健康調査のお願い>

放射能汚染に見舞われた地区に住んでいて、それ以降、新たに、皮膚障害、頭痛、足痛、鼻血、めまい、自律神経失調症、神経障害、不整脈などの心臓病、糖尿病などが出た方は、いつでも、どんな症状が、どのように出て、今どうなっているかをご連絡ください。

ご連絡くださった方には、前号の、うまく歩けるようになったミーシャ、サメ肌がきれいになったヤーナが食べている天然だしを、謝礼にお贈りします。

日本の農業も放射能対策を

セシウム137とストロンチウム90の半減期は約30年。その10倍たてば1000分の1になって、危険性はほぼなくなります。

ですから、300年放っておけば消えますが、そんなに長い間、田畑を放置しておくわけにはいきません。

福島県では、セシウムの吸着材としてゼオライト、減少材として塩化カリウムを、同意した農家の水田に散布しています。

原発が4基も爆発し、汚染地の有機肥料が広域流通している現状では、化学肥料の方が安心です。

そもそも地下資源も地球物質で、カリウムとカルシウムは地殻に多く含まれる植物の必須元素です。

有機農家も、この2つの元素を多く含む化学肥料を毛嫌いせずに、種をまく前に投入し、「転換中」にランクを下げて、緊急事態を切り抜けるべきでしょう。

化学肥料を畑に入れても、どの程度いつまで有効かわからない部分があるので、これから数十年にわたって収穫物を検査し続ける必要があります。(小若)

日本が大好きになる被害調査を

チェルノブイリの被害調査で、私たちは大きな成果を挙げ、ウクライナの被害者に日本を大好きになってもらいました。

私たちの調査方法と対極にあるのが、国の被害研究で、多額の原子力予算を使って、専門家がウクライナで数万人とか何十万人という規模の研究援助を行っています。

多額の研究費を持ち込んでくれたことに感謝され、分厚い研究報告の巻頭挨拶をしているのが山下俊一長崎大学副学長です。

しかし、日本の予算を使える「利権」を持つ研究者には喜ばれても、放射能の被害者には誰一人として喜ばれていません。

放射能の被害研究は、死亡者か病気の人を調べますが、治療はしません。被害者は切り捨てられるので、広島・長崎の被爆者が抱いたような不信感が残るのです。

その上、厳密さを求めるので、被曝量を正確に測定できないウクライナでは、被害が出ているのに、放射能が原因とは突き止められない仕組みになっています。

それで、放射能の被害は大幅に過小評価されてきました。

その結果、福島では、健康を害する地域に人が住んでいたり、その程度の放射線量では被害が出ないと見逃されています。

国はウクライナにお金をつぎ込んでいますが、被害者には感謝されていません。

私たちは、被害を治して放射能が原因だったことを突き止めるので、ウクライナの被害者から感謝されています。民間団体がこまめでは道を付けたのです。

ここから先は国が、私たちを見習ってウクライナ国民に感謝されるようにしながら、放

射能の最小作用量と最大無作用量を厳密に突き止めるべきです。

今月号で、最小作用量が既知の9000分の1以下であることが明らかになったので、この分野の専門家は無能だったと証明され、もう無用になりました。

「食品中の放射能が症状を起こす科学」はご臨終となったので、国民を放射能の危険から守る科学と、規制体系を、ゼロから構築し直さねばならなくなっています。

その費用は、批判されている「除染」をやめれば、簡単にねん出できます。

福島県では、「除染なくして復興なし」をスローガンに、年に3200億円をつぎ込んで、除染を行っています。ところが、労働者を被曝させながら、放射能を環境に拡散させ、すぐ元の汚染レベルに戻る、と批判されているのです。

この除染費用の3%を、ウクライナ、ベラルーシ、ロシアの放射能汚染地域で苦しんでいる人たちを救済する調査費用に回すことを提案します。

私たちのような調査を大規模に行えば、何十万人もの人に感謝され、日本を大好きになってもらいながら、最小作用量と最大無作用量がわかり、どのような地域で、どのような対策をするのが最も有効で、かつ安上がりな対策かもわかります。

これがわかっているならば、日本のどこで被害者が出て、救済方法がすぐに提示できます。そういう巨大調査プロジェクトを行うよう、みんなで声を上げてください。

食品と暮らしの安全基金代表 小若順一

チェルノブイリと福島「放射能から子どもを救う基金」 カンパのお願い



福島原発の事故後、政府の専門家は、健康影響は出ないと言い続けています。本当にそうなのかを調べるには、チェルノブイリ原発事故が起きて26年後の国・ウクライナに行って調べると、最も正確な情報を得られます。

事故の年に生まれ、足や頭や心臓が痛いと言う26歳の女性を、汚染が少ない地域に70日間、保養に行って安全な食事をしてもらったら、痛みがなくなりました。

彼女は、常に持ち歩いていた心臓の薬・ニトログリセリンを、今は持ち歩かなくなっています。

この費用にカンパを使わせていただきました。

この事例は、一女性が健康になって幸せになっただけでなく、私たちにとって、大きな希望と、貴重な情報を得ることができました。

ウクライナでは、食品が数ベクレル/kg 程度汚染されているだけで、足が痛い、頭痛、喉痛、自律神経の病気の子がいます。

そこで、健康障害のある子や親に放射能を含まない食事にしてもらい、治していくことを試みました。

すると、放射能の少ない食品を食べていると改善されることが今回の調査(第4回ウクライナ調査<上>)でわかりました。その理由は、ほとんど細胞分裂しない細胞が、食品汚染による内部被曝で、死んだり、傷ついたりしているからです。

現在は、汚染のひどい村で3家族に、放射能の少ない食品を食べてもらい、健康状態の改善をモニターしています。

ウクライナで多数の子どもと大人を健康にすれば、

福島にも、日本にも大きな朗報になります。

そこで、みな様にカンパをお願いする次第です。

＜カンパ振込先＞

ゆうちょ銀行振替口座

口座記号番号 00160-3-512738

口座名 食品と暮らしの安全基金

※他行等からの振込をご利用される場合は、下記振込先をご指定ください。

店番 019

当座 0512738

口座名 トクヒ)シヨクヒントクラシノアンゼンキキン

※クレジットでも受け付けております。
クレジットの場合は、当団体ホームページからお願いいたします。
<http://tabemono.info/>

NPO 法人 **食品と暮らしの安全基金**
(旧称：日本子孫基金)

〒338-0003 埼玉県さいたま市中央区本町東 2-14-18
TEL 048-851-1212 FAX 048-851-1214
ホームページ <http://tabemono.info/>